

情報選択の基礎を身に付け、自ら学ぶ子の育成

設楽町立田口小学校 内藤 希世美

1 研究のねらい

子どもたちは、日常生活で電子機器に触れる機会が多く、ゲームや動画視聴などでインターネットには日ごろから親しんでいる。本校においても、昨年度から一人に1台のタブレット端末が支給され、学校における調べ学習で、インターネットを利用する機会は格段に増えた。その一方、図書を利用する機会が減りつつある。インターネットの手軽さや便利さに目を奪われ、本の魅力はますます感じられにくくなりつつある。実際に、本学級の児童も、図書館を読書以外の目的で利用している児童はほとんどおらず、事前のアンケートでも、図書館の利用目的は読書または趣味のため、と答えた児童が9割だった。そのため、図書館の本の一部しか利用しておらず、普段よく読む本以外に、図書館にはどのような本があるのかを知らない児童も多い。そこで、図書館の本の分類や配架について知ることにより、インターネット同様、本にもまた良さがあることに、改めて気づかせたい。様々な手段で正しく情報を得られる力を身に付けることは、今後の学校生活のみならず、日常の多くの場面で役立つものとなるであろう。

また、学校という自らの生活の場の一部である学校図書館の在り方について主体的に考える経験は、学校における様々な問題を自分たちの問題としてとらえ、進んで解決しようという意欲を育てることにもつながると考える。実際に、子どもたちの意見を反映して図書館を改善することによって、学校の問題に主体的にかかわる積極性を養い、達成感を味わわせたい。

2 研究の目標

情報選択の基礎を身に付け、様々な学習場面で、適切な手段を用い、情報を取捨選択することができる児童を育てるための学校図書館の在り方や、学校図書館を活用した授業展開の方法を明らかにする。

3 研究の仮説

仮説①

学校図書館にどのような本があるかを知り、情報選択の一つの手段として図書があることを知ることによって、情報収集の選択肢が広がり、様々な学習において、適切な手段を用いて情報収集をすることができるようになるであろう。

仮説②

自らの学校図書館の利用方法を振り返り、自分たちの手で理想の図書館づくりをすることで、学校図書館をより身近なものに感じ、図書館を利用しようとする意欲が高まるであろう。

4 研究の手立て

仮説①の手立て

- ・図書館には、学習に役立つ本が多くそろえられていることを知るために、自分たちで図書館地図を作成する。
- ・様々な方法を適切に用いて情報収集する力を育てるために、図書館とタブレット端末両方のメリットデメリットを感じられるオリエンテーリングを実施する。
- ・様々な方法を適切に用いて情報収集する力を育てるために、授業で得た知識を生かして取り組む調べ学習を設定する。

仮説②の手立て

- ・自分たちの課題としてとらえるために、日ごろどのように図書を利用しているか、アンケート結果を視覚化する。
- ・問題解決に主体的に取り組む姿勢を育て、達成感を味わえるようにするために、「授業の調べ学習で、もっと活用できる図書館」を目指して図書館改善計画を立て、実際に図書館の改善を行う。

5 授業の実際

(1) 国語科「図書館へ行こう」(5年生)の実践

① 図書館地図を作ろう

図書館の本を有効に活用するためには、まず、図書館には、どのような本があるのかを知ることが第一である。日本十進分類法について学習をした後で、目的の本を、分類番号を頼りに探すオリエンテーリングを実施した。挑戦したオリエンテーリングは、以下のようなものである。

図書館クイズ 5年 No.9

図書館で本や資料をさがす練習のためのクイズです。
図書館にある資料、目録カードなどを使って答えましょう。

1 つぎのことから調べるのにふさわしい本を3さつずつさがして、ラベル記号と書名、出版社(発行所)を書きましょう。

調べたいことから	ラベル記号	書名	出版社(発行所)
①天気	□		
	□		
	□		
②日本の漁業	□		
	□		
	□		
③自動車工場	□		
	□		
	□		
④人の体の成長	□		
	□		
	□		

図書館クイズ 5年 No.1

図書館で本や資料をさがす練習のためのクイズです。
図書館にある資料、目録カードなどを使って答えましょう。

1 次の請求記号の本を探し、書名、出版社名を書きましょう。また、三冊に共通するテーマは何かを考えましょう。
共通するテーマ

ラベル記号	書名(シリーズ名)	出版社(発行所)
9 13 2 0 5		
4 5 1 1 7		
5 1 9 8		

2 題でテーマを決めて、様々な分類の本から、そのテーマに関する本を三冊集めましょう。また、集めた本の請求記号、書名、出版社名を書きましょう。
テーマ

ラベル記号	書名(シリーズ名)	出版社(発行所)
□		
□		
□		

引用：図書館へ行こう！図書館クイズ 山形県鶴岡市立朝陽第一小学校（著） 国土社

子どもたちは、オリエンテーリングを通して初めて、自分たちが普段使う図書館には、分類番号のすべての本が網羅されていることを知り、分類番号を知ること、効率的に本を探ることができることを知った。また、同じテーマでも、分類が異なる本があることも知った。以下に示すのが、オリエンテーリング後の振り返りである。

<p>言求言己号の見方は知らなかったけど、本をさがすのがとても楽しかったです。他にも色々な本を言売んだりさかしたりました。</p>	<p>いろいろな本があるのも知ったし、どの本があるのかを分かったのがよかったです。これからは、テーマの内容や番号を見て探します。</p>
---	--

オリエンテーリングを行う中で、「こんなところに、野球の本があった。」「歴史の本がたくさんあります。」などという声が、子どもたちから聞かれた。また「図書館に、分類番号0から9の本が全部あるなんて知らなかった。」という子もいた。これは、子どもたちが図書館の一部の本しか利用していない証拠であり、まずは図書館のどこに、どんな本があるかを知らなければならぬと感じた。そこで次に、図書館地図の作成に挑戦した。子どもたちには、「自分たちが必要な本を探したいときに使える地図」を作成するよう声をかけた。

地図の作成を通して、子どもたちは図書館にどんな本があるのかを知っただけでなく、自分たちが、図書館の本の一部しか利用していないことも実感することができた様子が、以下の振り返りからもうかがえる。

図書館地図を作ると本を借りる時に見れば「借りやすくて便利だし、作ってみて、あらためてここにこの本があるんだなあとかここはおススメの本の場所なんだなあということがわかりました。わたしは9の文学(しょう説)をたくさん読んだけどほかの本も読んでみたいなあと思いました。作ってみて楽しかったです。

地図を作ると、どこにあるのかか分かるようになることが分かった。自分かよく行く本たが分かった。文学(しょう説)をよく言売むことは分かったけど、これからはちかいう本も言売んだりして、いろんなことを知って分かるようになってしょう来こまらないようにたくさん本を言売んで分かるようにしたいです。これからも本をたくさん読みたいです。

② 理想の図書館を考えよう

次に、「理科や社会科、生活科などの調べ学習でも使いやすく、誰もが本を探しやすい理想の図書館」を目指して、図書館改善計画を立てることにした。

事前に、担任が隣接する新城市の市立図書館で取材した配架の工夫や展示の様子の資料をもとに、利用者が使いやすい図書館にする工夫や、あまり読まれない本を読んでもらう工夫を自分たちの図書館にも取り入れるべく話し合いを行い(写真1)、理想の図書館地図を作成した。以下に示すのは、子どもたちの話し合いの様子である。



写真1 資料を見て話し合う子ども

- | | |
|---|---|
| <p>S1 あまり読まれていない本を、入り口から入ってすぐのところに置こう。
S2 人気のある本は、その後ろね。
S2 学習とかに使う本で、どこに置く？
S3 工作の本とか？
S1 これはどうする？(民話を指して)
S2 あんまり人気ないもんね…</p> | <p>S2 あ、こちら辺のも人気のない本に入れて…
S1 さっき S3 さんが言った工作の本はどうする？
S2 こちらへんにするのはどう？(地図に書き込む)
S3 ここは何入れる？(空いている書架を指して)
S2 歴史にしよう。(地図に書き込む)
S2 (国・算・社・理の本を学習の本と決めた書架に書き込む。)</p> |
|---|---|

話し合いの結果、どの班でも、以下の点が重視された。

ア あまり読まれていない本を目立つ場所に置くこと。

イ 学習の本をまとめて置き、手に取りやすい場所にそろえること。

ウ 代本板や個人ファイルなど、貸し出しのために必要なものは、カウンター付近にそろえること。

そして、「エ 分かりやすい地図や案内板を図書館に掲示しておく」という意見も出された。



写真 2 理想の図書館について話し合う子ども

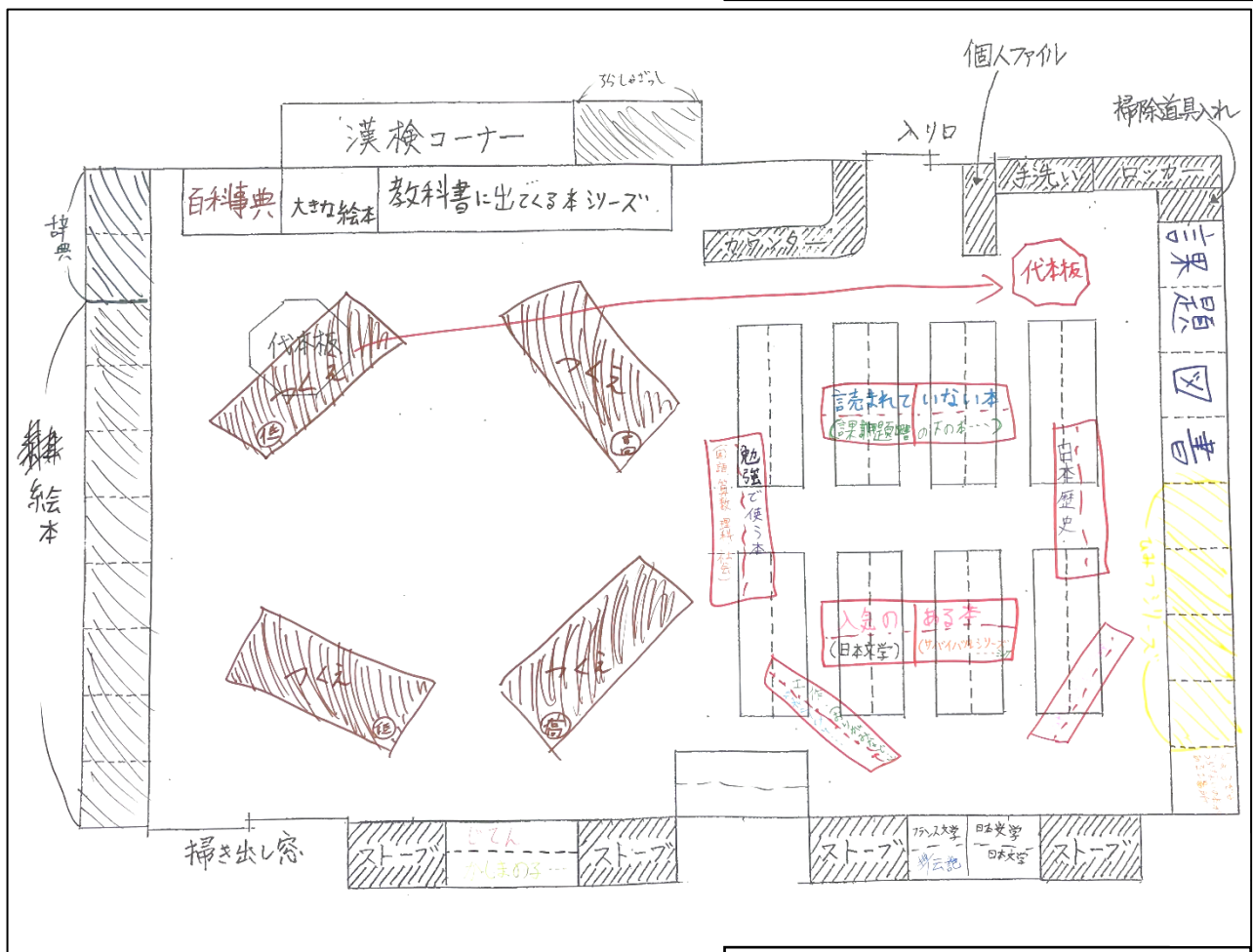


図 1 子どもたちが考えた図書館改善案

後日、子どもたちの意見のうち「イ 学習の本をまとめて置き、手に取りやすい場所にそろえること」「ウ 貸し出しに必要なものをカウンター付近にそろえること」「エ わかりやすい地図や案内板を掲示すること」を取り入れた改善計画をまとめ、1週間をかけて、図書館の改善を行った。右の写真は、書架の配置を見直し、案内板を付けて改善をした、図書館の様子である。(写真3)



写真 3 改善後の図書館の様子

以下に示すのは、図書館改善後の、振り返りである。

私は、低学年と高学年でおく本の場所を分けたところがいよと思ひました。理由は見つけやすくなるからです。あと私はおりがみコーナーがよと思ひました。雨の日も晴れの日も楽しめる図書室になってよかったです。

絵本がわにおいてある本はなのところに言わ学習の本や低学年の読み物を おいたのがいいと思ひました。理由はすぐにつくえで読めるし言われるからで、他にも色々かいぞうして本がさがしやすくなりました。かいぞうしてあるなかでこの本読んでみようかなあということがいくつもありました。また読んでみようと思ひます。

日本十進分類法について学び、自分たちの図書館利用について振り返り、図書館改善を行った結果、いつも読まない本への興味が高まったことが、振り返りからはうかがえる。また、図書館の利用目的が読書以外にもあることを踏まえて図書館改善を行ったことにより、今後は様々な目的で図書館を利用しよう、他の学年にも利用してほしいという気持ちが高まったこともうかがえる。

また、図書館を改善した結果、実際に他学年からも次のような声が寄せられた。

【低学年からの声】

- ・簡単な本と難しい本で分かれていて、すごく選びやすくなりました。
- ・私はおり紙コーナーが好きです。前より図書館に行くことが多くなりました。
- ・前より、自分が借りたい本が見つかりやすくなりました。

【高学年からの声】

- ・机の配置が良くなって、本棚が増えたような気がしました。
- ・委員会で図書館の整頓がしやすくなりました。
- ・特集コーナーが良いアイデアだと思ひました。

実際の様子を見ていると、特に低学年は図書館に足を運ぶ回数が増えた子もおり、図書館改善が全校児童の利用意欲を高めていることが実感できる結果となった。

しかし実は、図書館改善に挑戦する前、子どもたちに、「図書館には、せっかくこんなに本があるのに、どうして私たちは一部分しか利用していないのだろうか。」と投げかけたところ、子どもたちからは「興味がないから。」「必要ないから。」という答えが返ってきた。読書の時間にあまり利用しない本が「学習に役立つ本」であることは実感できている子もいたものの、それらの本を利用する機会が、学校生活の中に存在しているということは、なかなか実感できていない様子であった。

情報選択の基礎を身に付けるためには、子どもたちが様々な選択肢をもっていることが大切であると考える。その際、選択肢の一つとして、図書館が含まれてほしい。そのためには、情報を得る手段としての本のメリットデメリットを知ることが重要であると考えた。

そこで次に、学校における学習活動で情報を得ようと思う際の代表的な選択肢として、タブレット端末と図書館を比較し、それぞれのメリットデメリットをつかむための学習に取り組むこととした。

(2) 国語科「情報を適切に活用しよう」(5年生)の実践

子どもたちに「知りたいことがあるときに何をを使って調べるか」と問いかけたところ、一番に出てきたのが、「動画(YouTube)」という答えだった。子どもたちの家庭生活の様子を聞いても、最近ではテレビよりもインターネット動画を見て自由時間を楽しむ子が増えている。インターネットによる調べ学習といえば検索サイトだったのは、もはや過去のことだということを強く実感する。そこで、子どもたちには、使う道具として、タブレット端末と図書館の本の二つを示すだけにとどめ、タブレット端末のど

のような機能を使ってもよいこととして、班ごとにテーマを定め、調べ学習に挑戦した。

それぞれの班のテーマは以下のとおりである。

1班 トマトを使った料理

2班 ひょうたんの活用方法

3班 低学年と一緒に楽しめる遊び

その結果、1班は、タブレット端末でも、図書館でも、情報を得ることができた。1班からは、以下のような声が聞かれた。

1班「トマトを使った料理」調べ

- ・タブレット端末も本も、どちらも調べやすかった。
- ・どちらも詳しく調べられて、よくわかった。
- ・本は、ふり仮名がふっていない本もあるけれど、ほとんどの本にふり仮名があって読みやすかった。
- ・本は、小さい子でもできそうな料理がたくさんあった。
- ・動画は、料理をしてくれるから、分かりやすい。
- ・インターネットは、漢字が読めないこともあったが、詳しく調べられた。

2班では、図書館では有効な情報を得ることができず、タブレット端末からは有効な情報を得ることができた。2班からは、以下のような声が聞かれた

2班「ひょうたんの活用方法」調べ

- ・図書館には、ひょうたんの本があまりなかった。
- ・タブレット端末は、動画がたくさん出てきたけれど、最初、どれを見ればよいかわからなかった。
- ・タブレット端末では、同じような情報が多くて、どれを見ればよいか困った。
- ・タブレット端末で検索していたら、すごくおもしろい情報が出てきた。

3班では、図書館ではすぐに有効な情報を得ることができたものの、タブレット端末ではなかなか目的に合った情報を見つけることができなかった。

3班「低学年と一緒に楽しめる遊び」調べ

- ・図書館には、遊びの本がたくさんあった。
- ・図書館には、いろいろなジャンルの遊びの本があって、どれを読もうか迷った。
- ・本は、表紙や目次で、目的の情報が調べられてよかった。
- ・タブレット端末は、動画で調べようと思ったらなかなか出てこなかった。

それぞれの班の結果を発表し、全体でタブレット端末と図書館それぞれのメリットデメリットを話し合った結果、子どもたちからは以下のような意見が出された。

【図書館（本）のメリット】

- ・子ども向けの本が多いので、ふり仮名がふってあって読みやすい。
- ・イラストや写真と文章が、分かりやすく同じページにある。

【図書館（本）のデメリット】

- ・図書館の広さには限界があるので、入る本の数にも限界がある。
→つまり、ない本がある。

【タブレット端末のメリット】

- ・キーワードを入れればすぐに調べられる。
- ・たくさんの情報を調べられる。

・動画なども見られて、分かりやすい。

【タブレット端末のデメリット】

- ・キーワードをうまく入れないと、なかなか目的の情報にたどり着けない。
- ・情報が多すぎて、どれを見ればよいのかがわからない。
- ・難しい言葉が多く、読めないことがある。

以上のまとめからは、活動を通して、子どもたち自身、タブレット端末にも図書館にも、良さや悪さがあることを実感することができたことがうかがえる。また、子どもたちからは、情報の正確性（インターネット情報の匿名性）や情報の変化への対応能力については意見が出なかったため、本は正確だが、情報の更新速度はインターネットに劣ること、インターネットは、素早く最新の情報を得やすいが、情報の正確性に乏しい面があることを付け加えて指導した。

<p>タブレットや本で <u>タブレットは新しい情報</u>が もあり、本は字が大きかったりわくわくしてあ りして、タブレットも本もどちらもわかりやすい です。</p>	<p><u>情報が本当に正確なのかなどを大切</u> にしたほうがいいと思いました。</p>
<p>今回のことを通して、本もタブレットも良い所や悪い所が分 かると、本は両方とも使うので、両方の良い所や悪い 所をうまくつなげて活用したいです。</p>	<p>わたしは家でタブレットを使ったこと がないからわからないけどもしイン ターネットを使うときは、はじめに本でさがし てからくわしい情報をインターネットで調 べようと思います。</p>

上に示した子どもたちの振り返りからは、タブレット端末にも図書館の本にも、良さも悪さもあることが理解でき、両方をうまく使って情報を得ることが重要だということが理解できた様子うかがえる。また「情報が本当に正確なのを大切にしたい」と書いている子がいるように、調べ学習において、正確性が重要なポイントであることも、理解できた児童が多かった。

6 今後の課題

今回の実践を通して、子どもたちは図書館利用の在り方について考え、情報を得ようとする際に何が大切かを実感をもって学ぶことができた。今後は、この実践で得たスキルを、様々な教科の調べ学習や委員会活動に生かしていくことが重要となる。5年生では、理科や社会科の学習、総合的な学習の時間に調べ学習を行っている。そうした時間に、子どもたちが図書もタブレット端末もうまく活用して調べ学習を行えるよう、私自身、課題設定の在り方を工夫していく必要があると感じた。

また、今回子どもたちと一緒に図書館の改善を行って、改めて、情報の更新が必要な書籍が多いことを実感した。図書の購入を考える際に、図書館全体を見渡し、また先を見通した購入計画を立て、活用しやすい図書館を維持していきたい。